

2. 予算(案)の概要

<>の数値は、前年度との比較

当初予算の全体像

◆ **一般会計の予算額** 522億70百万円 <+52億40百万円、+11.1%>
 彩都・止々呂美小中一貫校の校舎増築や定員拡大に伴う保育給付費の増、新駅周辺の用地取得などにより予算規模は増加

◆ **全会計の予算額** 1,497億41百万円 <+158億34百万円、+11.8%>
 (特別会計・企業会計を含む)

競艇事業会計において、SG競走(グランプリ)の開催年にあたるため、予算規模が拡大

◆ 一般会計の主な歳入の状況

・ **市税収入** 235億37百万円 <+5億80百万円、+2.5%>
 個人市民税の増(人口・一人あたり税額ともに増)、箕面森町・彩都地区の新築家屋の増加による固定資産税の増収などにより、市税収入全体で約5億80百万円の増加

・ **国庫支出金** 101億42百万円 <+1億93百万円、+1.9%>
 定員拡大に伴う保育給付費の増加や、民間保育施設の整備などにより、国庫支出金は約1億93百万円の増加

・ **市債** 32億97百万円 <+1億25百万円、+3.9%>
 彩都・止々呂美小中一貫校の校舎増築などによる市債の増加

・ **競艇事業会計繰入金** 6億円 <±0億円、±0.0%>
 収益向上策の強化などにより、前年度と同額の6億円の繰入金を見込む。
 約36百万円を北大阪急行線延伸整備に活用、約8百万円を北大阪急行線延伸に係る市債の利子償還分に活用、約5億56百万円を『北大阪急行南北線延伸整備基金』へ積立

◆ 一般会計の主な歳出の状況

・ **扶助費** 119億40百万円 <+11億6百万円、+10.2%>
 保育所定員拡大による保育給付の増加など

・ **普通建設事業費(施設整備工事など)** 119億9百万円 <+34億78百万円、+41.2%>
 彩都・止々呂美小中一貫校の校舎増築や、(仮称)箕面船場駅前の用地取得など

・ **積立金** 6億21百万円 <+1億56百万円、+33.5%>
 『北大阪急行南北線延伸整備基金』、『みどり推進基金』への積立など

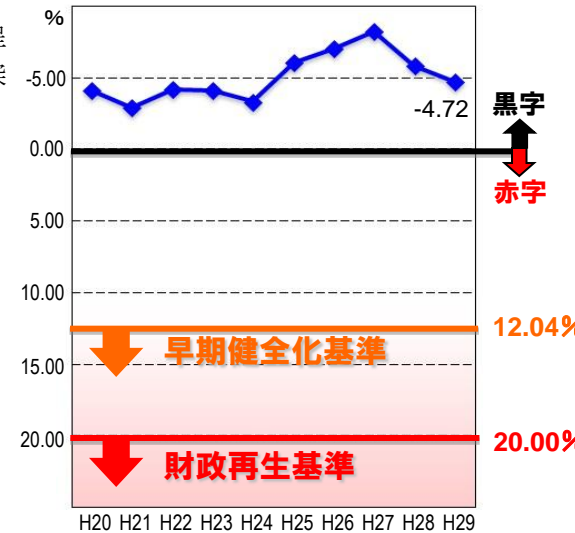
健全化判断比率の状況

平成28年度以前は決算(見込み)、平成29年度は当初予算後の数値による試算。いずれも数値が小さいほど健全。早期健全化基準を超えた団体は、破たん一歩手前の状態で、早期に財政の立て直しが必要。(イエローカード) 財政再生基準を超えた団体は、破たん状態とみなされ、国の関与のもと厳しい財政の再建が必要。(レッドカード)

◆ 実質赤字比率

一般会計の赤字の程度で、財政運営の深刻度を示す。

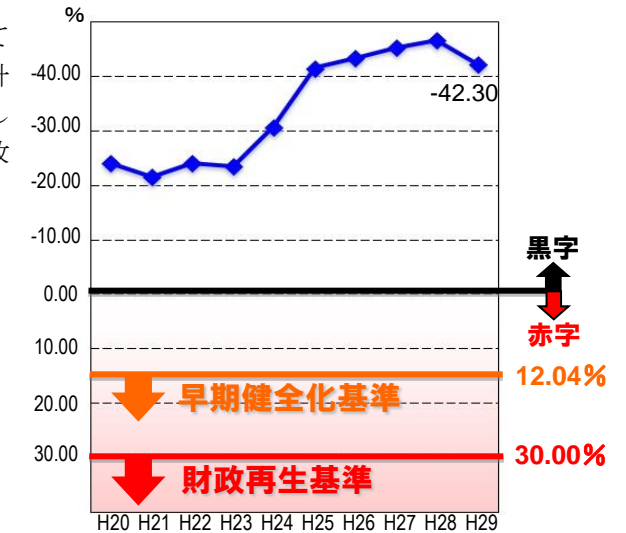
黒字



◆ 連結実質赤字比率

一般会計の他、すべての特別会計、企業会計の赤字や黒字を合算した赤字の程度で、財政運営の深刻度を示す。

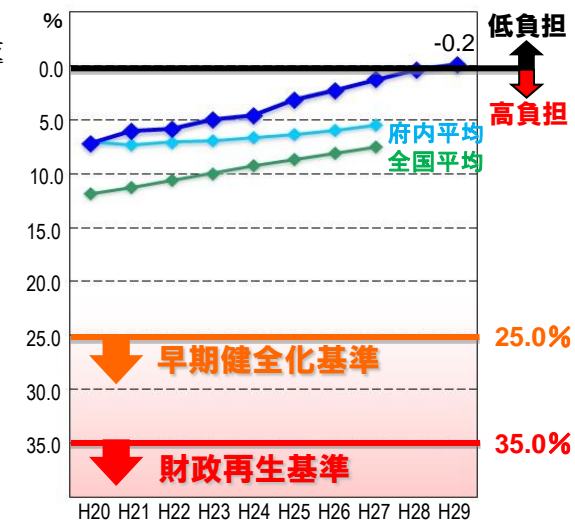
黒字



◆ 実質公債費比率

一般会計の市債の返済額などの大きさで、資金繰りの危険度を示す。

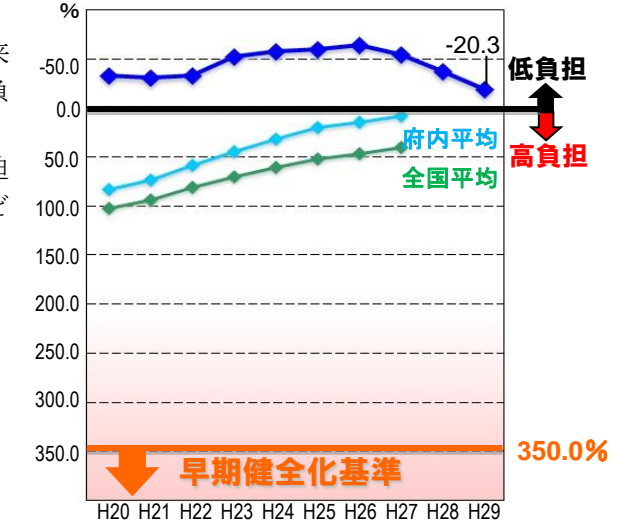
堅調



◆ 将来負担比率

一般会計の市債や将来支払う可能性のある負担などの残高の程度で、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す。

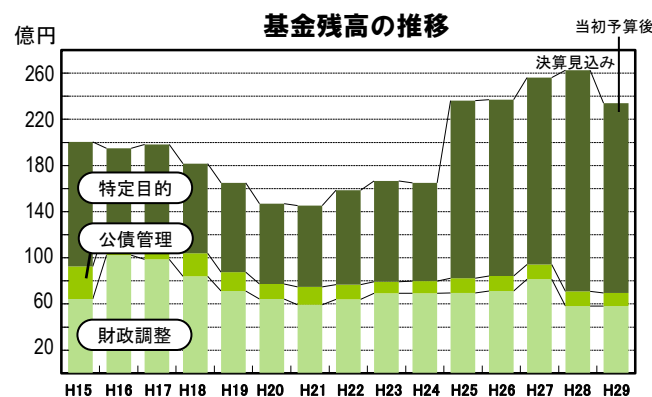
低負担



収支バランスの状況

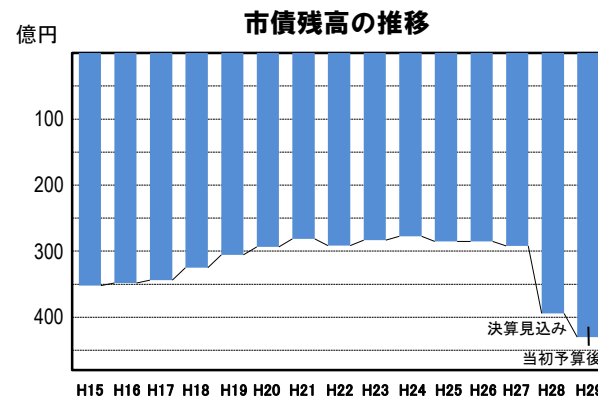
◆ **基金残高(普通会計ベース)** 234億68百万円 <▲28億75百万円、▲10.9%>

『北大阪急行南北線延伸整備基金』や『みどり推進基金』などへの積立を行った一方、彩都・止々呂美小中一貫校の増築や新駅周辺まちづくりなどに充てるために取り崩した結果、基金残高は28億75百万円減少した。(昨年同様、財政調整基金の取り崩しはしない。)



◆ **市債残高(普通会計ベース)** 429億88百万円 <+35億82百万円、+9.1%>

約21億80百万円返済する一方、彩都・止々呂美小中一貫校の校舎増築や、公共用地の先行取得に伴う施設整備事業債などを約57億62百万円発行した結果、市債残高は約35億82百万円増加した。なお、臨時財政対策債は限度額まで全額発行せず、10億円の発行に抑えている。



◆ **経常収支比率** 97.4% <+3.1ポイント>

個人市民税の増(人口・一人あたり税額ともに増)などにより市税収入が増加したものの、一時的な定年退職者の増に伴う退職手当の増加や保育所定員拡大による保育給付の増加などにより、昨年度から3.1ポイント増加した。なお、今回で9年連続の経常黒字(経常収支比率100%以下)の達成となる。

